

情報提供等への取り組みに関するガイドラインの項目と取り組み

1. 学校の概要、目標及び計画

<学校の教育理念及び目標、特色>

ぐしかわ看護専門学校は、建学の精神である沖縄の博愛精神（イチャリバチョデー）、互助精神（ユイマール）を受け継ぎ、生命の尊厳（命どう宝）を基盤とする豊かな人間性を養い、すべての人々の健康と幸福のために行動する能力を培い、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも積極的に参加する姿勢を持って、看護の発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

・一人ひとりを支援する学年担当制

一学年5人の教員それぞれが学生を担当し、個別指導に力を入れることができます。授業は対面とオンラインを併用し、学習の質を保証しています。昨年度より学習支援システムcラーニングを導入し、担当教員と学生との連絡・相談、学生全体への連絡、ニュース等をタイムリーに提供することができます。授業は、学習支援システムを活用し、学生の主体的な学びを育み、グループ学習を通して常に相手の立場に立ってものごとを考え、どう行動したら良いのか判断できる力を養います。

・学科・実習ともに充実した学習環境

緑豊かな自然環境の中で駐車台数280台を有する広大な敷地や食堂、講堂、図書室、看護スキルラボ室、セミナー室等を設け、学生がのびのびと明るい学校生活ができるよう学習環境を整えています。学校内のWi-Fi環境を整備しオンライン授業の導入、臨地に近い学内実習の創意工夫、シミュレーションなど取り入れ、学生の学びを支援しています。

・万全の国家試験受験対策

国家資格の取得には、必ず受験対策が必要になります。看護師合格のために模擬試験や国家試験対策講義を徹底して行います。国家試験1ヶ月前には、学力別、領域別講義など、全教員が総力で対策を集中して行います。

・自律した社会人育成

看護師は、専門的知識だけでなく変化する社会状況に対応し得る豊かな人間性、高い倫理観を備えることが求められます。社会人にふさわしい社会的な行動様式は、日常的な取り組みによってはじめて身につきます。挨拶を励行し、服装・身なりの指導、時間や提出期限の厳守等、日頃から意識的に3密の回避、新しい生活様式など感染防止対策を実践し、身につけます。

・地域貢献・開かれた学校づくり

ぐしかわ看護専門学校では、看護の専門知識・技術を身につけるだけでなく、学校全体で取り組む学校行事も満載です。コロナ禍で学校行事、ボランティア活動、地域の老人会との交流会、近隣の高校生の学校訪問など制限しておりますが、今年度、感染状況に応じて学校教育活動を再開していきます。

<学校名、校長名、所在地>

学校名 中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校
校長 徳森 朝子
所在地 沖縄県うるま市昆布長尾原 1832-1
連絡先 TEL 098-972-4600
FAX 098-972-4610

<学校の沿革>

平成19年12月	九州厚生局より「看護師養成所」の指定を受ける
平成20年1月	第1回推薦・社会人推薦入学試験、一般入学試験（前期）実施
平成20年3月	一般入学試験（後期）実施
平成20年3月	学校教育法（昭和22年法律第26号第130条第1項）による学校設置の認可
平成20年4月	中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校 開校 第1回入学式 看護学科80名
平成21年2月	看護師養成所の学則（教育課程）、実習施設の変更承認通知交付を受ける
平成21年4月	第2代学校長に波川明美、副学校長川平稔就任
平成22年4月	第3代副学校長に仲田清剛就任
平成23年3月	第1回卒業式 看護学科75名
平成25年4月	第3代学校長に荻堂志那子就任
平成27年4月	第4代学校長に徳森朝子就任
平成28年1月	看護師養成所の校舎の各室の使用用途及び面積の変更が承認
平成28年10月	看護師養成所の学則（賞罰に関する条項）の変更が承認
平成29年4月	第4代副学校長に大城直人就任
平成29年6月	学校評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の発足
平成30年1月	厚生労働大臣より専門実践教育訓練講座（看護学科）の再指定を受ける 実習病院と学校の病学連携に関する協定書締結
令和元年11月	看護師等養成所指導調査 受審
令和2年2月	放送大学との連携協力に関する覚書締結
令和2年3月	第10回卒業式中止（新型コロナウイルス感染拡大防止）看護学科92名
令和2年4月	文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受ける
令和2年5月	緊急事態宣言を受け休校措置としてオンラインによる授業開始
令和2年10月	厚生労働省カリキュラム改正に向け「看護基礎教育検討会」報告書の公表
令和2年7月	第1回カリキュラム検討委員会開催
令和2年10月	「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて」の一部改正の通知
令和3年3月	実習病院と学校の病学連携に関する協定書締結

2. 学科の教育

<定員数>

【看護学科 3年制】 1学年80名 定員 240名

<カリキュラム>

1年次

	授業科目		必修・選択	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考法	必修	1	30
		情報科学	必修	1	30
		教育学	必修	1	30
	人間と生活 社会の理解	生命と倫理学	必修	1	30
		社会学	必修	1	30
		心理学	必修	1	30
		人間関係論	必修	1	30
英語 I		必修	1	30	
専門基礎分野	人体の構造と機能	身体のしくみ I	必修	2	60
		身体のしくみ II	必修	2	45
		生化学	必修	1	30
		栄養と健康	必修	1	30
	疾病の成り立ちと 回復の促進	微生物学	必修	1	30
		病理学	必修	1	15
		病態生理学 I	必修	2	45
		病態生理学 II	必修	1	30
		病態生理学 III	必修	1	30
	薬理学	必修	1	30	
健康支援と社会保障制度	現代医療論	必修	1	15	
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論 I	必修	1	30
		看護学概論 II	必修	1	30
		基礎看護学方法論 I	必修	1	30
		基礎看護学方法論 II	必修	1	30
		基礎看護学方法論 III	必修	2	45
		基礎看護学方法論 IV	必修	2	45
		基礎看護学方法論 V	必修	2	45
		基礎看護学方法論 VI	必修	1	30
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	必修	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	必修	1	30
	小児看護学	小児看護学概論	必修	1	30
	母性看護学	母性看護学概論	必修	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	必修	1	30
統合	在宅看護論	在宅看護概論	必修	1	30
合計				39	1065
実習	基礎看護学	基礎看護学実習 I	必修	1	45
	合計			1	45
講義・実習合計				40	1110

2年次

	授業科目		必修・選択	単位数	時間数
基礎分野	人間と生活 社会の理解	生活環境論	必修	1	15
		英語Ⅱ	必修	2	45
		レクリエーションとスポーツ	必修	1	30
専門基礎分野	疾病の成り立ちと 回復の促進	病態生理学Ⅳ	必修	1	30
		病態生理学Ⅴ	必修	2	45
	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	必修	1	30
		社会福祉学Ⅰ（社会福祉）	必修	1	15
	社会福祉学Ⅱ（社会保障）	必修	2	45	
専門分野	成人看護学	成人看護学方法論Ⅰ	必修	2	60
		成人看護学方法論Ⅱ	必修	2	45
		成人看護学方法論Ⅲ	必修	1	30
	老年看護学	老年看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
		老年看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
	小児看護学	小児看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
		小児看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
	母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
	精神看護学	精神看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
		精神看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
統合	在宅看護論	在宅看護論方法論Ⅰ	必修	2	45
小計				29	705
臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅱ	必修	2	90
	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ-1	必修	4	30
		成人看護学実習Ⅱ-2	必修		150
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	必修	2	90
小計				8	360
合計				37	1065

3年次

	授業科目		必修・選択	単位数	時間数
基礎	人間の生活社会の理解	文化人類学	必修	1	15
専門基礎	健康支援と社会保障制度	看護関係法令	必修	1	15
専門Ⅱ	母性看護学	母性看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
統合分野	在宅看護論	在宅看護論方法論Ⅱ	必修	1	30
		看護活動と管理	必修	1	30
	看護の統合と実践	医療安全	必修	1	30
		看護技術の統合	必修	1	30
		卒業論文	必修	1	30
小計				8	210
臨地実習		成人看護学実習	必修	2	90
		老年看護学実習	必修	2	90
		小児看護学実習	必修	2	90
		母性看護学実習	必修	2	90
		精神看護学実習	必修	2	90
		在宅看護論実習	必修	2	90
		統合実習	必修	2	90
小計				14	630
合計				22	840
授業・実習総時間数				99	3015

(年間計画)

前期 4月～9月

1年生	基礎看護学実習 I	11月
2年生	基礎看護実習 II	5月
3年生	領域実習	5月～7月
	事例研究発表	8月

後期 10月～3月

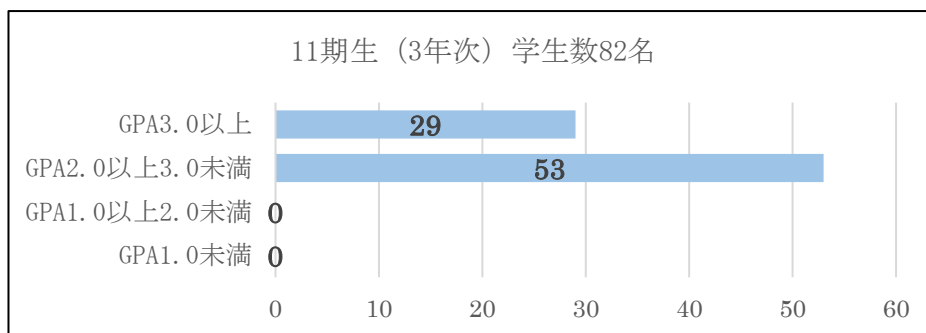
3年生	領域実習	9月～10月
3年生	統合実習	11月
2年生	成人看護学実習 1-1	12月
3年生	看護技術の統合 (OSCE)	12月
2年生	成人看護学実習 1-2	1月～2月

(進級・卒業の要件及び評価基準)

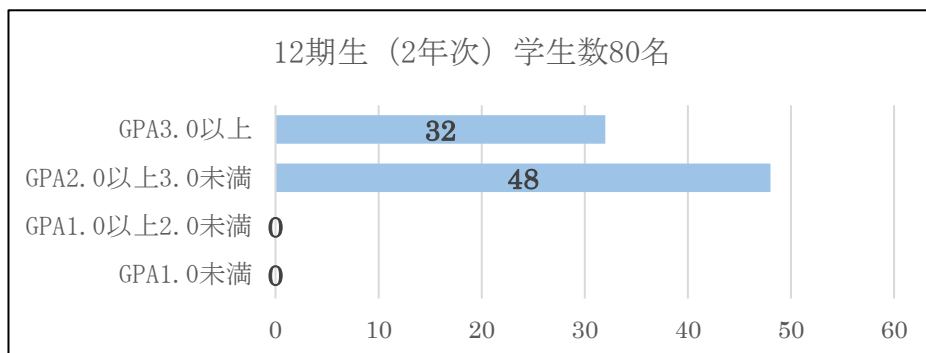
評価基準：筆記試験、実習評価は、優、良、可、不可の成績評価を行い、可以上を合格とする。

卒業・進級基準：所定の授業科目の単位の認定を受けた者について、会議の議を経て認定とする。

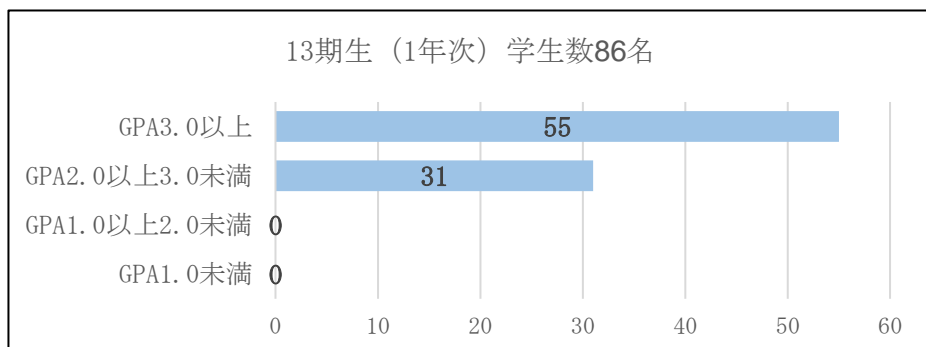
(GPA数値の分布状況) 単位：人



下位2分の1
(GPA) 2.53



下位2分の1
(GPA) 2.46



下位2分の1
(GPA) 2.73

3. 教職員

<教職員数>

- ・ 学校長 1名
- ・ 教務部長 1名
- ・ 事務部長 1名
- ・ 実習調整者 1名
- ・ 専任教員 15名
- ・ 実習指導教員 3名
- ・ 事務職員 5名

4. キャリア教育・実践的職業教育

<キャリア支援への取り組み>

認知症サポーター

<実習への取り組み> 2021年度

授業科目名	時間数	単位	年次	実施期間
基礎看護学実習Ⅰ	45時間	1単位	1年次	11月～12月
基礎看護学実習Ⅱ	90時間	2単位	2年次	5月
成人看護学実習1-1	30時間	4単位	2年次	11月～12月
成人看護学実習1-2	150時間			2022年1月～2月
老年看護学Ⅰ	90時間			2単位
成人看護学実習Ⅱ	90時間	2単位	3年次	前期 5月～8月
老年看護学実習Ⅱ	90時間	2単位		
小児看護学実習	90時間	2単位		
母性看護学実習	90時間	2単位	3年次	後期 9月～11月
精神看護学実習	90時間	2単位		
在宅看護論実習	90時間	2単位		
統合実習	90時間	2単位		
	1035時間	23単位		
<p>・ 実習の目的 学校で学んだ知識と技術を活用し、あらゆる健康段階にある対象に応じて科学的根拠に基づく看護実践を行うための基礎的能力を養っていく。また、実習時間を有効に活用し、チームの一員としての役割と責任を理解し行動できるよう効果的な実習を目指す。</p>				
<p>・ 実習施設との連携の基本方針 学校で学んだ知識・技術の実践として、臨地実習を配置していることから、学校と臨床現場の相互の理解の基に臨地実習が可能な施設を選定している。</p>				
<p>・ 実習施設との連携内容 実習指導体制として ①学内における実習指導・・・担当教員が指導を行う。 ②配属先における実習指導・・・承諾いただいた実習施設の指導担当者指導者および担当教員が指導を行う。</p>				
<p>・ 学修成果の評価 評価の方法としては、①担当指導教員からの評価 ②実習先実習指導者からの評価 ③自己評価以上の3つの内容から総合的に勘案して、4段階で最終的な評価を行う。</p>				
実習・演習等の計画				

日程	実習・演習等の内容	実習場所
1日目	オリエンテーション 受持ち患者の選定、情報収集	当該実習施設
2～4日目	情報収集、看護問題の明確化 看護計画の計画立案、実施、評価	当該実習施設
5～8日目	ケースカンファレンス 看護問題および看護問題の優先順位の修正 社会資源の理解および情報提供 中間のふり回り	当該実習施設 学内
9～11日	実施した計画の評価 施設の他職種との協働・連携の見学 実習関連部署の実習（外来部門・地域連携室・集中治療室他） *実習の展開は、領域の特徴から日程の変更がある。	当該実習施設
12日目	ふり回り・学習のまとめ	学内
連携する 実習施設	中頭病院 ハートライフ病院 ちゅうざん病院 中部徳洲会病院 沖縄病院 沖縄中央病院 県立中部病院 県立南部医療センター・こども医療センター うえむら病院 新垣病院 中部協同病院 中部地区医師会成人病検診センター 中部地区医師会訪問看護ステーション 介護老人保健施設おきなわ徳洲苑 すくすく保育園 うるま市地域包括支援センター 沖縄中部療育センター他 総数 86 施設	

*コロナ禍の臨地実習

緊急事態宣言時、実習施設受入れ困難な場合は、全体及び一部領域実習は学内実習とします。学内実習は、各領域2～3事例の看護過程を展開します。全領域でシミュレーションを行い、模擬患者には学内の教職員が対応し、領域で必要な看護技術を実施します。できるだけ臨地に近い実習を提供したいと教員の思いの詰まった、創意工夫のある学内実習となっています。

<就職支援への取り組み>

県内医療施設の就職説明会の開催、県内外医療施設の求人案内の閲覧する就職・進学関連資料室の設置、就職相談等学生支援室の設置等を行い、就職・進学をサポートします。また、履歴書作成から面接の練習や小論文対策迄個別指導します。

進学希望者の支援は、受験の心構え、受験対策など、県内進学した卒業生との交流の機会を設けています。

5. さまざまな教育活動・教育環境

<学校行事>

- ・ホームページに掲載あり

<課外活動>

- ・学生会活動
- ・学校行事に関する各実行委員会活動
- ・ボランティア活動

掲示されたボランティア募集を学生自身が申込み、活動しています。

6. 学生の生活支援

<学生への支援状況>

各学年に5名の担当教員がいることで、学生個別の面談の計画的実施で、学習指導や生活面の悩みも気軽に直接、メールで相談でき、きめ細かい個別対応ができます。また、スクールカウンセラーによるカウンセリング、保護者との連携・協力体制の構築を行い、学生の成長を支援していきます。

7. 学生納付金・修学支援

<学費について>

1年次	入学金 300,000 円、授業料 450,000	施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円
2年次	—	授業料 450,000 施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円
3年次	—	授業料 450,000 施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円

*上記の納付金のほかに諸経費とし教科書代、実習着代、学生損害保険料、学生会費、後援会費などは別途実費負担です。

<修学支援について>

- ・日本学生支援機構奨学金制度
- ・沖縄県看護師修学資金
- ・中部地区医師会奨学金：年間を通して学業に励み、人物・成績ともに他の学生の模範となる優秀な学生に対し、学納金の一部を免除します。

8. 学校の財務

下記アドレスにて(ぐしかわ看護専門学校ホームページ)情報公開

<https://www.gushikawa-ns.ac.jp/information.php>

9. 学校評価

<自己点検・自己評価結果・学校関係者評価結果>

下記アドレスにて(ぐしかわ看護専門学校ホームページ)情報公開

<https://www.gushikawa-ns.ac.jp/information.php>